



歩行者・自転車の
交通安全

夜は 反射材 をつけましょう。

車に自分の姿を
早めに見つけてもらうために



反射材 の 活用例



からだ

- 胸にかける
- 腕や手首に巻く
- 足に巻く
- 靴に貼る



持ち物

- 傘に貼る
- カバンに下げる
- リュックに貼る
- ウエストポーチに貼る



自転車

- 自転車の鍵につける
キーホルダーに下げる
- スポークにつける
- 空気注入口につける

岐阜県警察シンボルマスコット



岐阜県警察 岐阜県自動車会議所

ハイビームなら
100m前方の歩行者が
よく見えます。



ロービームでは
100m前方の歩行者は
ほとんど見えません。



夜間走行 基本はいつも、

ハイビーム

(照射距離
100m^(フル))

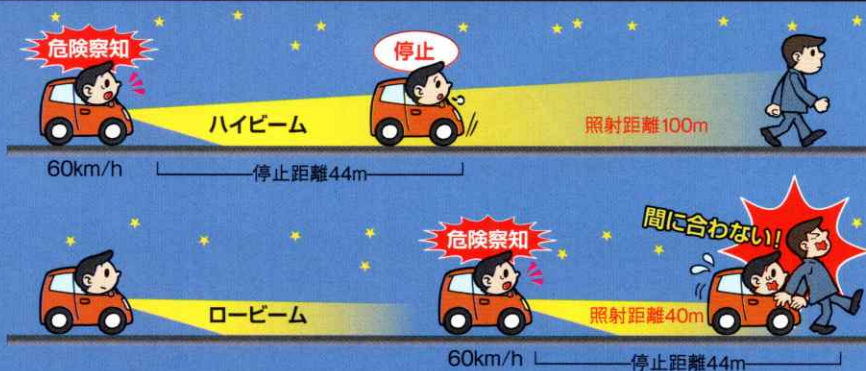
夜間、前方の横断歩行者等を、より早く見つけるために



例えば時速60kmで走行中、運転者が前方の危険に気づいてブレーキペダルを踏み、ブレーキが効き始めるまでに1秒かかるとすると、この間に進む距離は約17m、ブレーキが効き始めて車が停止するまでに要する距離が約27mですから、合わせて約44m必要です。

ロービーム(法定の照射距離=40m)では、前方の障害物を見つけて急ブレーキをかけても、間に合いません。

ハイビームとロービームで、それぞれ危険を察知したとき



疲労や眠気など運転者の心身状態、タイヤの摩耗程度など車両の状態、雨や雪などによる路面状態等によって、停止距離がさらに伸びる可能性も大いにあります。

ロービームにしなければならないのは…

- 交通量の多い市街地を走行するとき
- 前走車がいる場合や対向車と行き違うとき



状況に応じた
こまめな
切り替えを
お願い
します。